



MODEL N5 - C
エリアイメージャインジソン
インストレーション&プログラミングマニュアル

[illegible]

1. 本書の内容に関しては、将来予告無しに変更することがあります。
2. 本取扱説明書の全部又は一部を無断で複製することはできません。
3. 本書内に記載されている製品名等の固有名詞は各社の商標又は登録商標です。
4. 本書内において、万一誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたらご連絡ください。
5. 運用した結果の影響について、責任を一切負いかねます。

INDEX

1. はじめに	6
1.1. 概要	6
1.2. 照明 LED	6
1.3. イマー	6
2. 一般要件	7
2.1. ESD	7
2.2. 埃や汚れ	7
2.3. 周囲環境	7
2.4. 熱対策	7
2.5. 設置方向	7
3. 光学部	8
3.1. ウィンドウの配置	8
3.2. ウィンドウ材質と色	8
3.3. 摩損耐性とコーティング	8
3.4. ウィンドウサイズ	8
3.5. 周囲光	9
3.5. 眼への安全性	9
4. 取り付け	10
5. 電源供給	11
5.1. リップルノイズ	11
5.2. DC 特性	11
動作電圧	11
動作電流	11
タイミングシグナル	11
パワーアップタイミングシグナル	11
グットリードヒープ出力の周波数と間隔	12
LED 出力	12
トリガ信号入力	12
6. ホストインターフェイス	13
6.1. N5-C インジソのピン配列	13
6.3. N5-C インジソ FPC コネクタ寸法	14
6.4. コミケーションインターフェイス	15
6.5. シリアルポートパラメータ自動調整機能	15
7. トリガ信号入力	16
8. フラッシュ出力	17
9. グットリード LED 出力	18
10. パラメータ設定	19
10.1. システムパスワード	19
10.2. パワーセーブモード	19
10.3. TTL-232 インターフェイス	20
10.3.1. ホールート	20
10.3.2. パリティ	21
10.3.3. デービット	21
10.3.4. ストップビット	21
10.3.5. デービット&パリティ	22
10.4. USB-HID インターフェイス	23
10.4.1. キーボード言語	23
10.4.2. 大文字・小文字変換	23
10.4.3. キャラクタ間送信ディレイ	24
10.4.4. ALT シグナル	25
10.4.5. ファンクションキーマッピング	25
10.4.6. テンキー送信	25
10.5. USB-COM インターフェイス	26
10.6. HID-POS インターフェイス	26
10.7. 読取モード	26
10.7.1. バッチモード	26

10.7.2. トリガモード	27
10.7.3. オートセレクトモード	29
10.7.4. コンテナモード	31
10.7.5. スパ液晶読取モード	32
10.8. 読取エリアの初期設定	32
10.8.1. 読取エリア	32
読取中央エリア	33
10.9. 照明 LED&イマ- LED	34
10.9.1. 照明 LED	34
10.9.2. イマ- LED	34
10.10. ステータスインディケータ	35
10.10.1. スタートアップビ-フ	35
10.10.2. ク-ットリ-トビ-フ	35
10.10.3. ク-ットリ-ト LED	36
10.10.4. ノ-リ-トメッセ-ジ送信	36
10.11. デ-タフォーマット	37
10.11.1. フ-リフィックス	37
10.11.2. AIM ID	38
10.11.3. コ-ド ID	39
カスタムコ-ド ID	39
10.11.4. カスタムサフィックス	42
10.11.5. タ-ミネータ	43
10.12. 読取コ-ドの設定	44
クイック設定	44
反転コ-ド	44
1次元コ-ド	45
コ-ド 128	45
GS1-128	46
AIM-128	47
EAN-8(JAN-8)	48
EAN-13(JAN-13)	49
ISSN	50
ISBN	51
UPC-E	52
UPC-A	53
インタ-リ-ブド 2/5	54
ITF-14	55
ITF-6	55
マトリクス 2/5	56
インタ-ストリアル 2/5	57
スタンダ-ト 2/5	58
コ-ド 39	59
コ-ダバ- (NW7)	61
コ-ド 93	63
GS1 Databar	64
コ-ド 11	65
Plessey	67
MSI-Plessey	68
2次元コ-ド	70
PDF417	70
QR	72
Data Matrix	74
10.13. イメ-ジコントロール	76
10.13.1. 周囲照明	76
10.13.2. イメ-ジの回転	77
10.14. シリアルコ-ド	78
10.14.1. コソフィグレーションコ-ド	78
コ-ド書式 1 : NLS+コ-ド	78
コ-ド書式 2 : NLS+コ-ド=数字	78
コ-ド書式 3 : NLS+コ-ド=16進数	78
コ-ド書式 4 : NLS+コ-ド="文字列"	78
10.14.2. トリガコ-ド	79
読取開始コ-ド 0x1b 0x31	79

読取終了コマンド 0x1b 0x30	79
オートセレクト 移行コマンド 0x1b 0x32	79
コンティニアスモード 移行コマンド 0x1b 0x33	79
補足 A. ASCII ファンクションキーマッピング表	80
補足 B. AIM ID 表	81
補足 C. ASCII コード 表	82

1. はじめに

1.1. 概要

N5-C イジツンは、デバイスカデバにや材料端末などへの組み込みに最適な小型 OEM イジツンです。

N5-C イジツンで読み取り可能なバ-コード・二次元コードを列挙します。

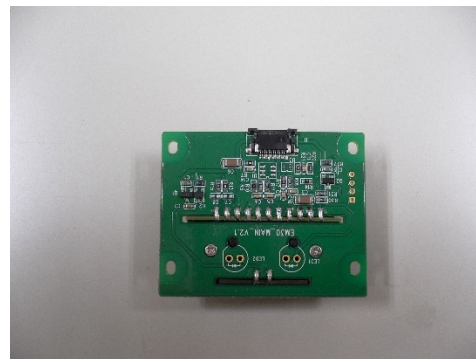
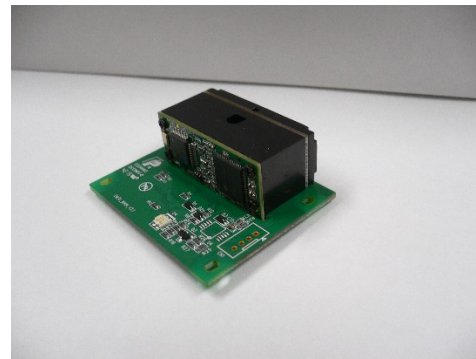
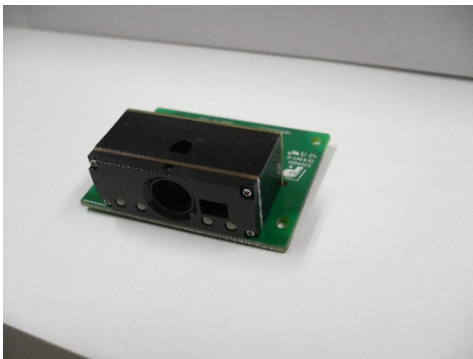
バ-コード

EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E, ISSN, ISBN, Codabar, Code 128, Code 93, ITF-6, ITF-14, Interleaved 2 of 5, Industrial 2 of 5, Standard 2 of 5, Matrix 2 of 5, GS1 Databar (RSS-Expand, RSS-Limited, RSS-14), Code 39, Code 11, MSI-Plessey, Plessey

二次元コード

PDF417, Data Matrix, QR Code

N5-C 外観



1.2. 照明 LED

N5-C イジツンは、補助照明として、4 つの赤色 LED を搭載しています。この LED の補助により、完全な暗がりでのバ-コード読み取りにも対応が可能になります。この照明 LED は、設定により有効・無効を切り替えることができます。

赤色 LED を採用しているため、N5-C イジツンは、赤色以外で印刷されたバ-コードに対して、より良い読み取りパフォーマンスを発揮します。赤色のバ-コードが関係するアプリケーションでは、照明 LED を無効に、外部から赤色以外(白色や緑色)の証明を照射して運用してください。実際に運用される環境にて、テストを実施し、最適な波長を持つ外部照明の採用を行ってください。

1.3. IIR-

N5-C イジツンは、対象のバ-コードに照準を合わせやすくするためのバ-状の緑色IIR-を照射します。IIR-は、設定により有効・無効を切り替えることができます。バ-コードを読み取る場合は、IIR-を有効の方がより効率的な運用が可能になるでしょう。

2. 一般要件

2.1. ESD

N5-C イジツソは、ESD 保護を考慮した ESD セーフパッケージングにて出荷されます。N5-C イジツソを取り扱いは、必ずグラウンドされたリストストラップと適切にグラウンド処理された作業場所で行ってください。

2.2. 埃や汚れ

N5-C イジツソは、埃、粉塵や汚れなどがレンズや基板に付着しないよう、十分に保護密閉されているべきです。埃、粉塵や汚れなど、外部の汚染物は、結果的にイジツソのパフォーマンスを落とす要因となります。

2.3. 周囲環境

N5-C イジツソのパフォーマンスを十分に発揮させるには、下記の周囲環境要件を満たさなければいけません。

動作温度	-20℃~+60℃
保管温度	-40℃~+80℃
湿度	5%~95% 氷結・結露無し

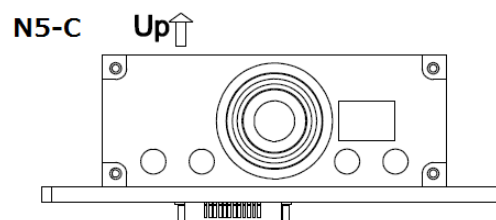
2.4. 熱対策

N5-C イジツソの構成電気パーツは、動作中熱を発生します。特に連続読取モードでの長時間動作は、デューダチップと CIS¹の温度を上昇させます。オーバーヒートは、イメージ品質の低下と読み取りパフォーマンスの低下を引き起こします。よって、次の注意点を予め考慮に入れた上で、N5-C イジツソの組み込みを行わなければいけません。

- 空気が良く循環する十分なスペースを確保した設計が必要です。
- 熱を遮断する材料のような素材で N5-C イジツソを包み込んではいけません。

2.5. 設置方向

N5-C イジツソには、2つの取り付け用ネジ穴が本体底面にあります。下記に正しく設置した場合の N5-C イジツソの正面図を示します。



¹ CIS = Contact Image Sensor

3. 光学部

3.1. ウィンドウの配置

ウィンドウ(読取窓)は、照明 LED 及びイマー LED を可能な限りそのまま透過させ、且つインゾ側²に逆反射しないよう正しく配置しなければいけません。

インゾの正面(読み取り部)に対して並行で且つ、近接させて配置します。また、不必要な反射を避け、より良い読み取りパフォーマンスを得るために、薄い素材をウィンドウに採用してください。

ウィンドウを傾いた状態で配置する必要がある場合、インゾ側への逆反射が無いよう距離、傾斜角度を良く考慮して配置を決定してください。

3.2. ウィンドウ材質と色

可能な限り高い入射トランスミッション及び最も低いかすみ度合と均質な屈折率を達成するため、N5-C インゾ CIS²の応答性(主に赤色光波長に対して)をウィンドウ材質、色を決定する上で十分考慮しなければいけません。具体的には、赤色光の入射トランスミッションが 90%以上で、かすみ度合が 1%未満の PMMA 又は光学ガラスの採用が推奨されます。

反射防止コーティングを行うかどうかは、材質やアプリケーションの必要性によります。

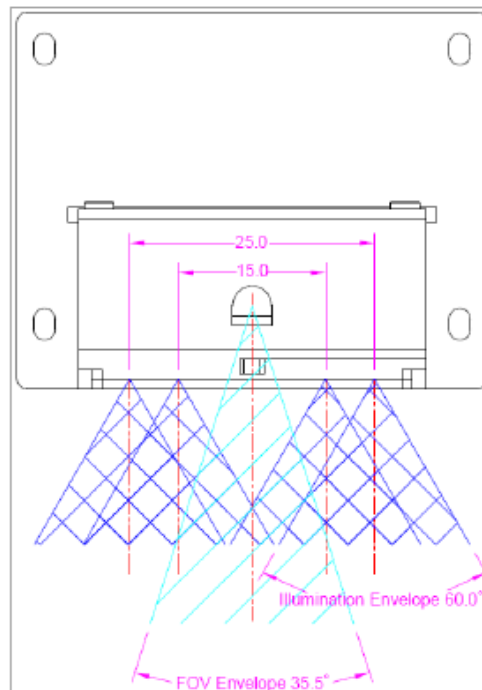
3.3. 摩損耐性とコーティング

ウィンドウの摩損(擦れ・傷)は、N5-C インゾを読み取りパフォーマンスを著しく低下させる要因となります。ウィンドウには、摩損耐性のある材質や相当するコーティングが推奨されます。

3.4. ウィンドウサイズ

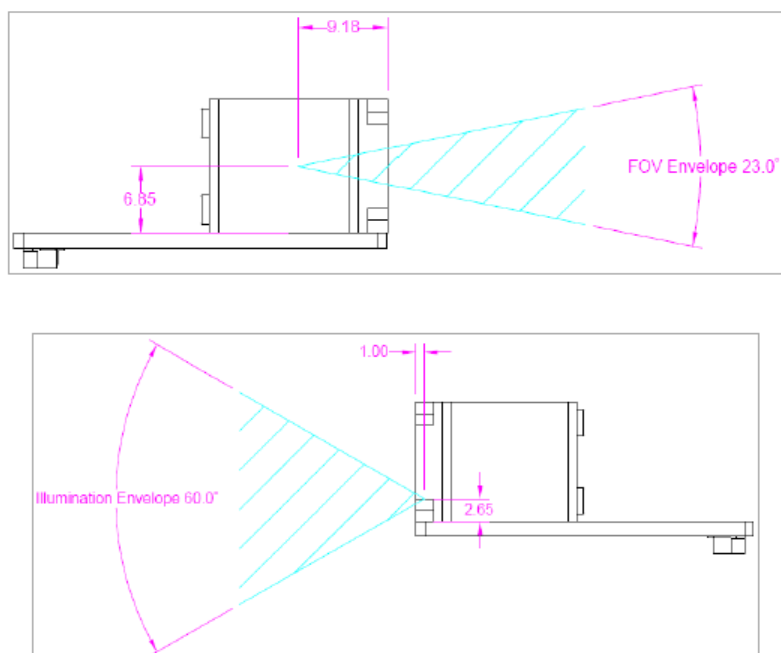
ウィンドウサイズは、視野フィールドをブロックせず、下記に示す照明インパルプ(Illumination Envelope)に適應したサイズでなければいけません。

上面



² CIS = Contact Image Sensor

側面



3.5. 周囲光

N5-C インジゴは、周囲光によって、より良いパフォーマンスを得ることができます。AC 電源 50-60Hz の蛍光灯のフリックさせるのも良いでしょう。但し、高周波パルス光は、パフォーマンスを低下させることになります。

3.5. 眼への安全性

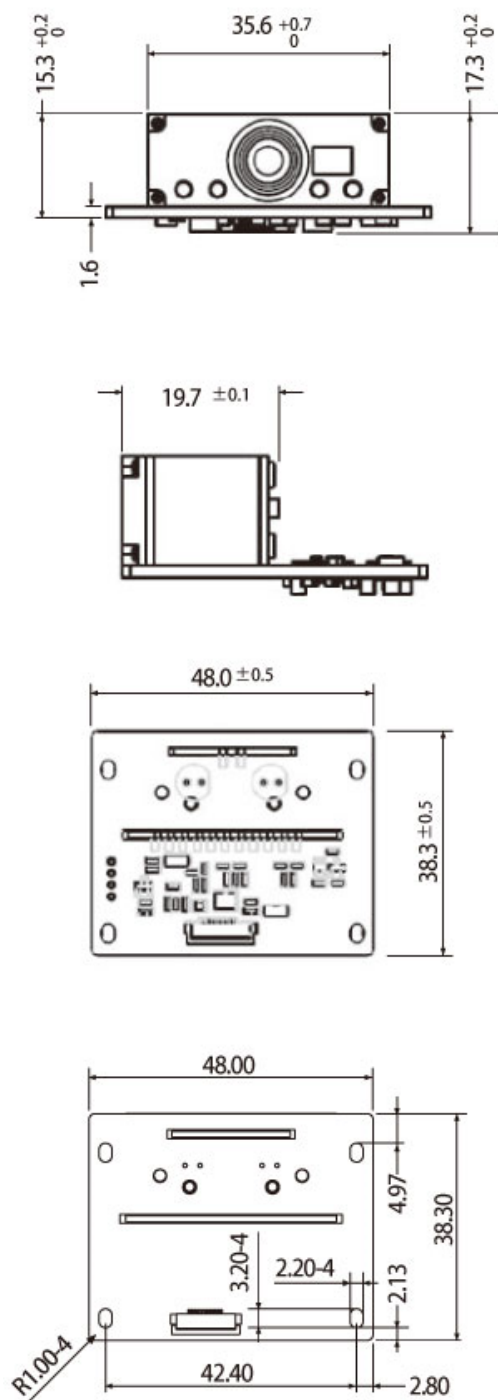
N5-C インジゴは、レーザー光を使用していません。照明及びディスプレイには、LED を採用しています。LED は明るいですが、試験により、一般的条件下でのアプリケーションでは、安全であることが証明されています。しかし、LED ビームの直視は避けるよう、注意してください。

4. 取り付け

N5-C インジケータは、基板デバインと FPC コネクタ経路で接続し、PCB の取付穴 4 箇所を利用して固定します。

以下に各インジケータの寸法図を示します。取り付けの際は、熱対策を考慮し、空気が良く循環する十分なスペースを確保した構造設計を行ってください。

N5-C



単位 mm

5. 電源供給

正しく接続が行われるまで、N5-C インジゴに電源を供給しないでください。ホットプラグからフラックスボールを取り外したり、接続する場合は、必ず電源供給がされていないことを確認するようにしてください。ホットプラグはN5-C インジゴの破損の原因となります。

不安定な電源供給、急激な電圧降下、無意味な短時間での電源再立ち上げなどは、N5-C インジゴを不安定動作を誘発します。短時間での電源再立ち上げは、絶対行わないでください。少なくとも500ミリ秒以上の間隔をあけるようにしてください。

N5-C インジゴに電源スイッチはありません。電源供給をカットすることでのみ、N5-C インジゴをリセットすることができます。スイッチを、リセットを頻繁に行った場合でも、N5-C インジゴの耐用年数には影響しません。

N5-C インジゴのスタートアップタイムは、200ミリ秒以下です。

5.1. リップルノイズ

N5-C インジゴのイメージセンサ及びデコードチップは、インジゴへの供給電源から直接電源供給されます。確かなイメージ品質を得るためには、安定した低いリップルノイズ電源が必須です。

許容リップル範囲(peak-to-peak) : 50mV 以下 (30mV 以下を推奨)

5.2. DC 特性

動作電圧

Ta=25°C

パラメータ	説明	Min.	Typ.	Max.	単位
V_{IN}	入力電圧	3.0	3.3	3.6	V
V_{IH}	ハイレベル入力電圧	$0.7 \cdot V_{DD}$	-	-	V
V_{IL}	ローレベル入力電圧	-	-	$0.2 \cdot V_{DD}$	V
V_{OH}	ハイレベル出力電圧	$0.9 \cdot V_{DD}$	-	-	V
V_{OL}	ローレベル出力電圧	-	-	$0.1 \cdot V_{DD}$	V

動作電流

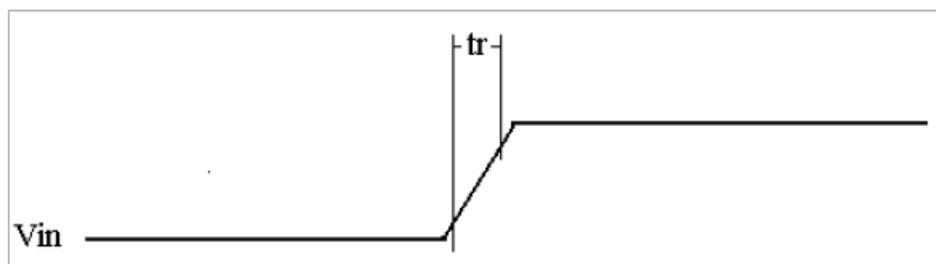
動作電流
230

待機電流
50

単位
mA

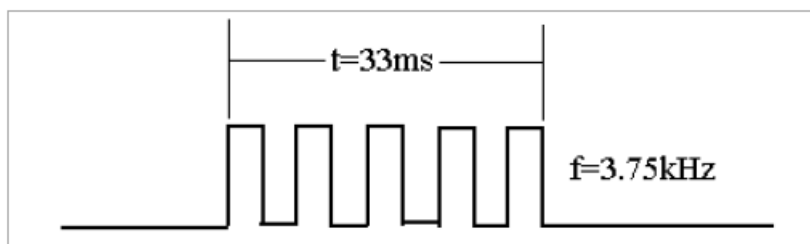
タイミング シーケンス

パワーアップ タイミング シーケンス

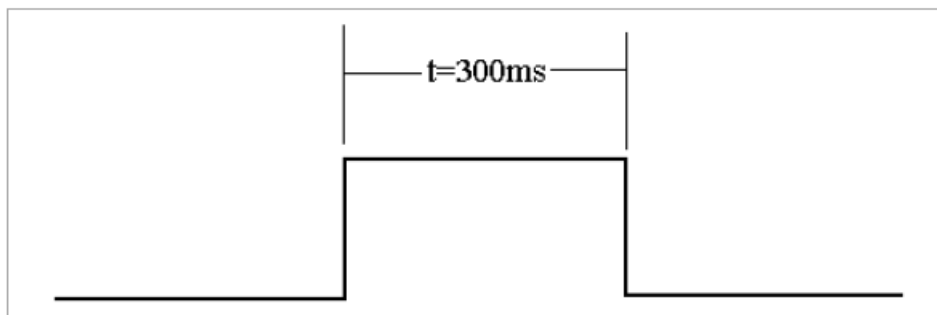


(*) $Tr=2$ ミリ秒以下

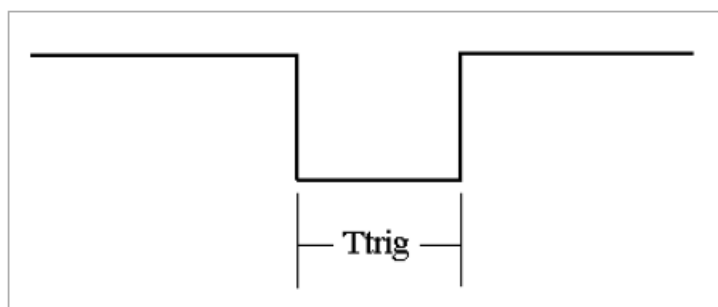
グッドリードビープ出力の周波数と間隔



LED 出力



トリガ 信号入力

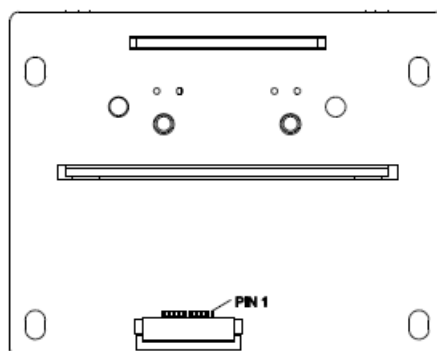


(*) Trig=10 ミリ秒以上

6. ホストインターフェイス

6.1. N5-C インジソのピン配列

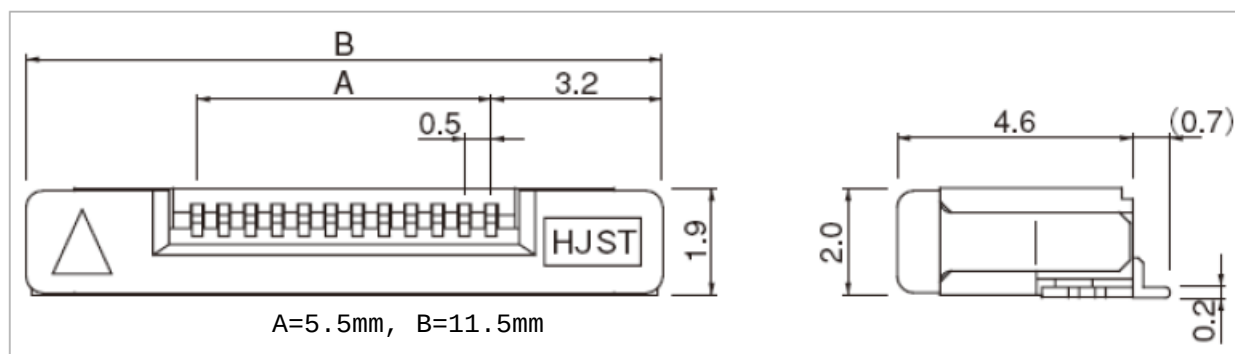
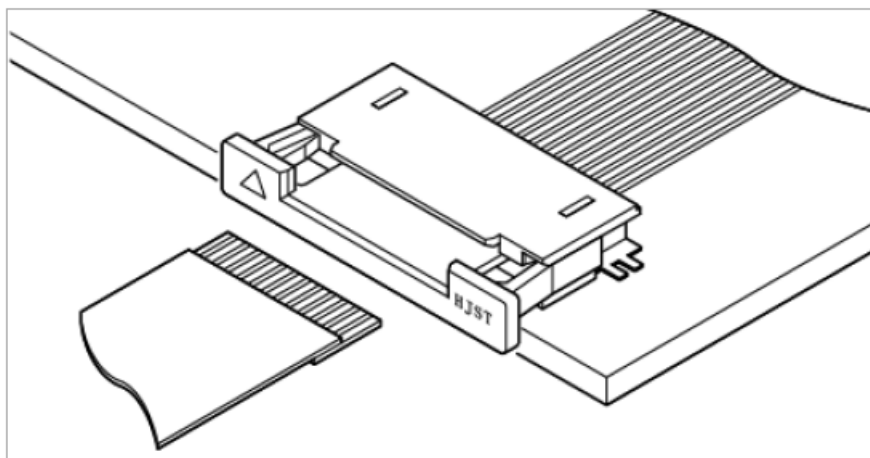
N5-C インジソでは、12ピンFPCコネクタ(トップコネクタ)を通して、ホストデバイスとTTL-232 又はUSB インターフェイスで接続します。下記にコネクタ位置とピン配列を示します。



ピン#	信号	I/O	機能
1	NC	-	未接続
2	VIN	-	DC3.3V 電源
3	GND	-	電源グラウンド
4	RX	I	TTL レベル 232 受信データ, インジソ上で 10K プルアップ抵抗
5	TX	O	TTL レベル 232 送信データ, インジソ上で 10K プルアップ抵抗
6	USB Data-	I/O	USB データ信号 (-)
7	USB Data+	I/O	USB データ信号 (+)
8	NC	-	未接続
9	Buzzer	O	ブザー出力
10	LED	O	グッドリード LED 出力
11	NC	-	未接続
12	nTrig	I	トリガ信号入力, インジソ上で 10K プルアップ抵抗 読み取りを行う場合、このピンを 10 ミリ秒以上 Low にします

6.3. N5-C インジキ FPC 接続寸法

N5-C インジキは、トップコネクタ、0.5mmピッチの12ピンFPCコネクタを採用しています。フラットケーブルケーブルを通して、ホストデバイスと接続してください。下記にイメージ図と寸法図を示します。



6.4. コミューニケーションインターフェイス

N5-C インジンは、ホストデバイスと下記の何れかの方法でコミュニケーションを取ることができます。

- ✧ TTL-232 インターフェイス
ほとんどのシステムで適用可能なインターフェイスです。RS232C が必要な場合は、TTL-232 から RS232C へのレベル変換回路が必要になります。
- ✧ USB-HID
USB キーボードをエミュレートしてホストデバイスへデータを送信します。USB-HID に対応したホストデバイスであれば、プラグアンドプレイで利用でき、特別なドライバをインストールする必要もありません。
- ✧ USB-COM
COM ポートをエミュレートして、ホストデバイスとコミュニケーションを行います。専用のドライバが必要となります。
- ✧ HID-POS
HID-POS に準拠したインターフェイスです。ホストデバイスが HID-POS に対応していれば、特別なドライバをインストールする必要はありません。

TTL-232 インターフェイスは、ボーレート 1200bps~115200bps をサポートしています。ハードウェア及びソフトウェア制御には、対応していません。デフォルトは、9600bps, 8データビット, パリティ無し, 1ストップビットです。

6.5. シリアルポートパラメータ自動調整機能

N5-C インジンは、ホストデバイスのボーレートに自動的に調整をするシリアルポートパラメータ自動調整機能を搭載しています。下記に示すシンプルな手順により、エンジンとホストデバイス間の確実なシリアルコミュニケーションを確立することができます。

1. N5-C インジンに電源を投入するとシリアルポートパラメータ自動調整機能モードに入ります。3 秒以内に、ホストデバイスからエンジンに、CR(0x0D)を送信してください。
2. エンジンは、CR(0x0D)を受信すると、自動調整が完了したことを示す >(0x3E)をホストデバイスへ返送し、得られた制御ワードを UART_FCW レジスタに書き込みます。
3. ホストデバイスで >(0x3E)が受信できなかった場合は、200 ミリ秒以上の間隔を空けて、エンジンに CR(0x0D)を送り続けてください。

N5-C インジンに予めボーレートをプリセットしている場合は、nTrigピンを Low にすることで、3 分間のシリアルポートパラメータ自動調整機能モードをスキップすることができます。

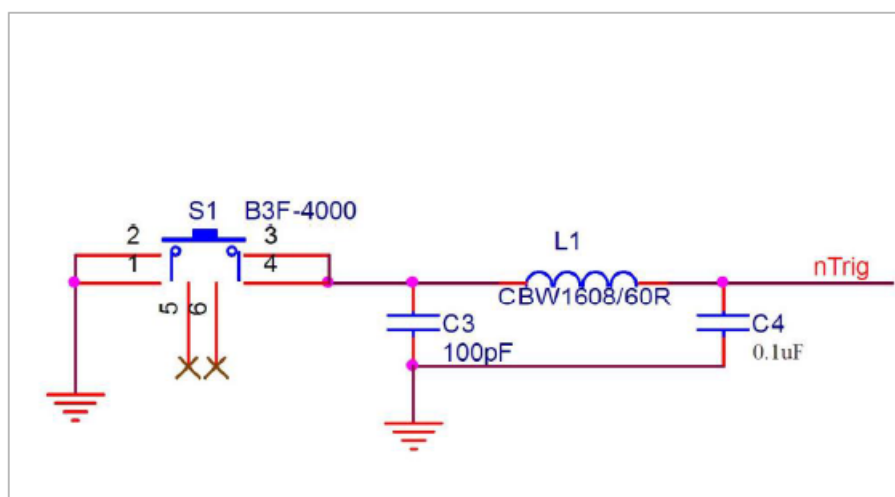
7. トリガ 信号入力

nTrigピンを10ミリ秒以上Lowにすることで、N5-Cインジケータは、読取モードになります。コードをデコードすると、N5-Cインジケータは、ホストデバイスへ読取データを送信後、トリガがリリース(nTrig=High)されるのを待ちます。読み取り試行中(コードをデコードする前)にトリガがリリースされると、N5-Cインジケータは、直ちに読取モードを終了します。

N5-Cインジケータは、トリガ信号が再度アクティブ (nTrig=Low)になるまで、次の読取モードを開始しません。

コードのデコードには、イメージキャプチャ、デコード、その他工程が関係しているため、トリガの間隔は、最低でも50ミリ秒以上空けるようにしてください。

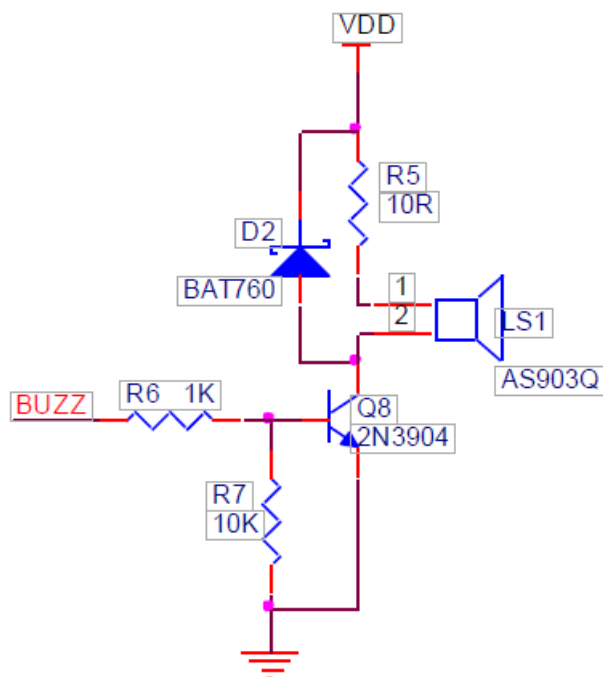
下記のトリガ回路図を参照ください。



8. ブザー出力

N5-C インジケータは、PWM 出力を外部ドライバ回路へ行うブザー出力 (Buzz ピン) を装備しています。これにより、パワーアップやゲットリードなどのステータスをオーディオフィードバックとして、ユーザーに提供することができます。PWM 出力は、ブザーを駆動するには十分な強さがないため、ブザードライバ回路が必要になります。

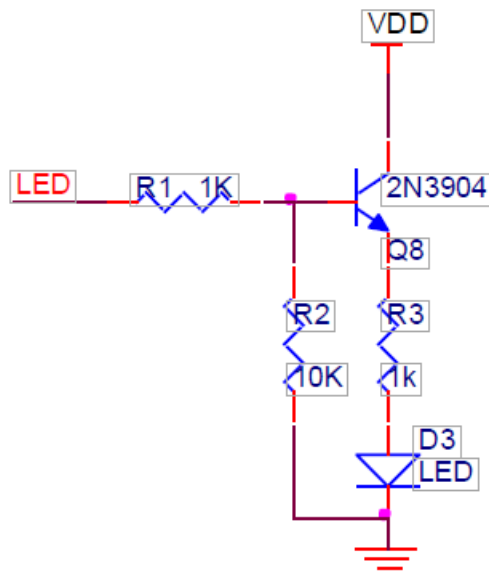
下記のブザードライバ回路図を参照ください。



9. グッドリード LED 出力

N5-C インジケータは、グッドリード LED を制御するための外部ドライバ回路へ出力を行うグッドリード LED 出力(LEDピン)を装備しています。読み取りに成功すると、N5-C インジケータは、LEDピンを約 300 ミリ秒 high レベル出力にし、Low レベルに戻します。グッドリード LED 出力は、LED を駆動するには十分な強さがないため、LEDドライバ回路が必要になります。

下記の LEDドライバ回路図を参照ください。



10. パラメータ設定

本書に掲載しているコマンドバーコードを読み取ることで、N5-C イジツのインターフェイスや読み取りに関するパラメータ設定が行えます。設定されたパラメータは、不揮発性メモリに保存されるため、電源を切にして設定が消えることはありません。

N5-C イジツは、コマンドバーコードをスキャンすると、ピーポーというビープ音を鳴動し、コマンドバーコード以外のバーコードをスキャンした場合は、ピーツというグッドリッドビープ音を鳴動します。無効なコマンドバーコードや間違った順序でコマンドバーコードをスキャンすると、リーダは、ポーツというエラービープ音を鳴動します。

10.1. システムバーコード

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 0 0 6 0 1 0	設定を開始します。	
 0 0 0 6 0 0 0	現在の設定値を保存して、設定を終了します。	
 0 0 0 1 0 0 0	工場出荷時の全デフォルト値でリセットします。	
 0 0 0 1 1 5 0	現在の設定値を加算デフォルト値として、不揮発性メモリに保存します。 <u>工場出荷時デフォルト値は、上書きされません。</u>	
 0 0 0 1 1 6 0	加算デフォルト値でリセットします。	

10.2. パワーセーブモード

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 0 0 9 0 0 0	ノーマルモード	■
 0 0 0 9 0 1 0	パワーセーブモード (TTL-232 インターフェイスでのみ有効) (*) USB インターフェイス使用時は、設定しないでください。	

10.3. TTL-232 インターフェイス

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 1 0 0 0 0 0	TTL-232 インターフェイスに設定します。TTL-232 インターフェイスのデフォルトパラメータは下記の通りです。 ボーレート : 9600bps パリティ : 無し データビット : 8ビット ストップビット : 1ビット フロー制御 : 無し	

10.3.1. ボーレート

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 1 0 0 0 0 0	1200bps	
 0 1 0 0 0 1 0	2400bps	
 0 1 0 0 0 2 0	4800bps	
 0 1 0 0 0 3 0	9600bps	■
 0 1 0 0 0 4 0	14400bps	
 0 1 0 0 0 5 0	19200bps	
 0 1 0 0 0 6 0	38400bps	
 0 1 0 0 0 7 0	57600bps	
 0 1 0 0 0 8 0	115200bps	

10.3.2. パリティ

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 1 0 1 0 0 0	無し	■
 0 1 0 1 0 1 0	偶数	
 0 1 0 1 0 2 0	奇数	

10.3.3. データビット

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 1 0 3 0 2 0	7ビット	
 0 1 0 3 0 3 0	8ビット	■

10.3.4. ストップビット

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 1 0 2 0 0 0	1ビット	■
 0 1 0 2 0 1 0	2ビット	

10.3.5. データビット&パリティ

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 1 0 5 0 1 0	7ビット&偶数	
 0 1 0 5 0 2 0	7ビット&奇数	
 0 1 0 5 0 3 0	8ビット&無し	■
 0 1 0 5 0 4 0	8ビット&偶数	
 0 1 0 5 0 5 0	8ビット&奇数	

10.4. USB-HID インターフェイス

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 1 0 0 0 2 0	USB-HID インターフェイスに設定します。	

10.4.1. キーボード言語

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 1 0 3 0 0 1	英語キーボード	■
 1 1 0 3 0 0 2	日本語キーボード	

10.4.2. 大文字・小文字変換

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 1 0 3 0 4 0	変換無し 例 : AbC→AbC	■
 1 1 0 3 0 4 3	大文字・小文字反転変換 例 : AbC→aBc	
 1 1 0 3 0 4 1	大文字変換 例 : AbC→ABC	
 1 1 0 3 0 4 2	小文字変換 例 : AbC→abc	

10.4.3. キャラクタ間送信デレイ

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 1 0 3 0 5 0	10 ミリ秒	■
 1 1 0 3 0 5 1	20 ミリ秒	
 1 1 0 3 0 5 2	40 ミリ秒	
 1 1 0 3 0 5 3	カスタムデレイ 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~75 で、単位はミリ秒です。例えば、75 ミリ秒に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「カスタムデレイ」「7」「5」「保存」「設定終了」	

数値バーコード	
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0
2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0
6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0
最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0	保存  0 0 0 0 1 6 0

10.4.4. ALT シーケンス

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 1 0 3 0 6 0	無し	■
 1 1 0 3 0 6 1	モード 1	
 1 1 0 3 0 6 2	モード 2	
 1 1 0 3 0 6 3	モード 3	

(*) 次の「ファンクションキーマップシグ」 と競合する場合は、「ファンクションキーマップシグ」が優先されます。

10.4.5. ファンクションキーマップシグ

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 1 0 3 1 4 0	有効 「補足 A. ASCII ファンクションキーマップシグ 表」を参照ください。	
 1 1 0 3 1 3 0	無効	■

10.4.6. テキスト送信

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 1 0 3 1 1 0	無効	■
 1 1 0 3 1 2 0	有効 0~9 の数字データをテキストデータとして送信します。	

10.5. USB-COM インターフェイス

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 1 0 0 0 6 0	USB-COM インターフェイスに設定します。 弊社 WEB サイトより、専用ドライバをダウンロードしてご利用ください。	

10.6. HID-POS インターフェイス

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 1 0 0 0 8 0	HID-POS インターフェイスに設定します。	

10.7. 読取モード

10.7.1. バッチモード

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 0 2 0 0 3	バッチモード トリガ信号がアクティブな間、連続して読み取りを行います。 但し、同一コードの読み取りは行いません。次の読取サイクルを開始したい場合は、トリガ信号を一度オフにし、20 ミリ秒以上の間隔を空けて、再度アクティブにします。	

10.7.2. トリガモード

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 0 2 0 0 0	トリガモード トリガ信号がアクティブになると、読み取りを開始します。コードを読み取るか、設定された読取タイムアウトが経過すると、読み取りを終了します。次の読取サイクルまで、20 ミリ秒以上の間隔を空けるようにしてください。	
 0 3 1 3 0 9 0	1トリガ トリガ信号がアクティブな間、読み取りを試行します。コードを読み取るか、設定された読取タイムアウトが経過すると、読み取りを終了します。	■
 0 3 1 3 0 9 1	パルストリガ トリガ信号がアクティブになると、読み取りを開始します。トリガ信号をアクティブに保つ必要はありません。コードを読み取るか、設定された読取タイムアウトが経過すると、読み取りを終了します。	
 0 3 1 3 0 0 0	読取タイムアウト 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~3600000 で、単位はミリ秒です。例えば、1 秒(1000 ミリ秒)に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「読取タイムアウト」「1」「0」「0」「0」「保存」「設定終了」	3000
 0 3 1 3 0 6 0	オートスリープ有効 スリープモードタイマーで設定された時間、操作/通信が行われないと、スリープモード(又はローパワーモード)に移行します。ホストとの通信が行われるか、トリガ信号を受信すると、100 ミリ秒以内にオペレーションモードに復帰します。	■
 0 3 1 3 0 7 0	オートスリープ無効	
 0 3 1 3 0 5 0	スリープモードタイマー 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~65535 で、単位はミリ秒です。例えば、1 秒(1000 ミリ秒)に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「スリープモードタイマー」「1」「0」「0」「0」「保存」「設定終了」	500
 0 3 1 3 1 6 1	同一コード読取防止無効	■
 0 3 1 3 1 7 1	同一コード読取防止有効 同一コード読取防止タイマーで設定された時間、同一コードの読み取りを行いません。	
 0 3 1 3 0 1 0	同一コード読取防止タイマー 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~65535 で、単位はミリ秒です。例えば、1 秒(1000 ミリ秒)に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「同一コード読取防止タイマー」「1」「0」「0」「0」「保存」「設定終了」	1500

数値バーコード	
0  0 0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 0 1 0
2  0 0 0 0 0 2 0 0	3  0 0 0 0 0 3 0 0
4  0 0 0 0 0 4 0 0	5  0 0 0 0 0 5 0 0
6  0 0 0 0 0 6 0 0	7  0 0 0 0 0 7 0 0
8  0 0 0 0 0 8 0 0	9  0 0 0 0 0 9 0 0
最後の1桁削除  0 0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 0 1 6 0	保存  0 0 0 0 0 1 6 0

10.7.3. オートセスモード

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 0 2 0 1 0	オートセスモード コードを検知(周囲照度の変換を検知)すると、自動的に読み取りを開始します。コードを読み取るか、設定された読取タイムアウトが経過すると、読み取りを終了します。 オートセスモードでもトリガ信号は有効で、トリガモードと同じ動作をします。	
 0 3 1 3 0 0 0	読取タイムアウト 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~3600000 で、単位はミリ秒です。例えば、1 秒(1000 ミリ秒)に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「読取タイムアウト」「1」「0」「0」「保存」「設定終了」	3000
 0 3 1 3 1 2 0	イメージサイズリミット 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~1600 で、単位はミリ秒です。例えば、10 ミリ秒に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「イメージサイズリミット」「1」「0」「保存」「設定終了」	500
 0 3 1 3 1 3 0	マルチコード読み取り無効 コードの読み取りに成功すると、照明 LED を消灯して読み取りを終了します。	■
 0 3 1 3 1 3 1	マルチコード読み取り有効 コードの読み取りに成功しても照明 LED を消灯せず、次のコード読み取りを行います。	
 0 3 1 3 0 2 0	同一コード読取防止無効	■
 0 3 1 3 0 3 0	同一コード読取防止有効 同一コード読取防止タイマーで設定された時間、同一コードの読み取りを行いません。	
 0 3 1 3 0 1 0	同一コード読取防止タイマー 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~65535 で、単位はミリ秒です。例えば、1 秒(1000 ミリ秒)に設定する場合は、下記の順でスキャンします。	1500

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 0 3 1 2 0 0 0	オートセリ感度-低レベル	
 0 3 1 2 0 1 0	オートセリ感度-中レベル	
 0 3 1 2 0 2 0	オートセリ感度-高レベル	
 0 3 1 2 0 3 0	オートセリ感度-最高レベル	
 0 3 1 2 0 4 0	カスタムオートセリ感度 左のコマンドバ-コードをスキャンした後、数値バ-コードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~20 で、低い値ほど感度が高くなります。例えば、1 に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「カスタムオートセリ感度」「保存」「設定終了」	2

数値バ-コード	
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0
2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0
6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0
最後の1桁削除  0 0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 0 1 6 0	保存  0 0 0 0 0 1 6 0

10.7.4. コンティニアスモード

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 0 2 0 2 0	コンティニアスモード 連続してコード読み取りを行います。読取タイムアウトで設定された時間、コード読み取りを行い、読取間隔で設定された時間休止し、その後、コードの読み取りを繰り返します。コンティニアス読み取りの中断と再開をトリガ信号により、トリガ切り替えすることができます。	
 0 3 1 3 0 0 0	読取タイムアウト 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~3600000 で、単位はミリ秒です。例えば、1 秒(1000 ミリ秒)に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「読取タイムアウト」「1」「0」「0」「0」「保存」「設定終了」	3000
 0 3 1 3 0 4 0	読取間隔 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~65535 で、単位はミリ秒です。例えば、10 ミリ秒に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「読取間隔」「1」「0」「保存」「設定終了」	1000

数値バーコード	
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0
2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0
6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0
最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0	保存  0 0 0 0 1 6 0

10.7.5. スパ液晶読取モード

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 1 3 1 4 0	スパ液晶読取モード 無効	■
 0 3 1 3 1 4 2	スパ液晶読取モード 有効	

10.8. 読取エリアの初期設定

ここでは、各種アプリケーションに対応するため、リーダーの読取エリアの初期設定を行います。例えば、読取エリアを制限することで、ホールドに目的のコードを正確に読み取らせることが可能になります。

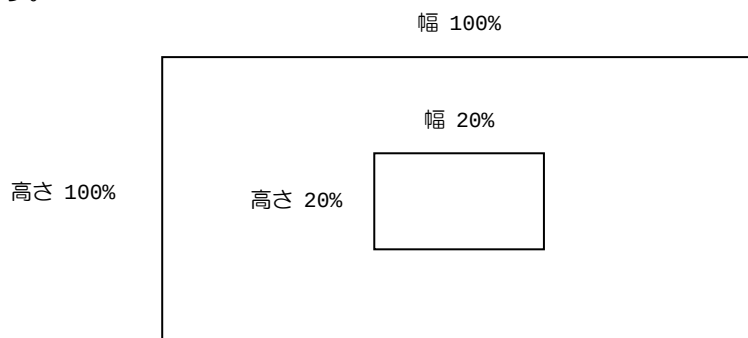
10.8.1. 読取エリア

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 2 2 0 0 0	読取エリア全域を対象 リーダーは、読取エリアの中心から周辺全域を対象に読み取りを試行し、最初に読み取ったデータを送信します。	■
 0 3 2 2 0 1 0	読取中央エリアのみ対象 リーダーは、初期設定された読取中央エリアのみを対象に読み取りを試行し、最初に読み取ったデータを送信します。読取エリアを制限することにより、ホールドに目的のコードを正確に読み取らせることが可能になります。	

読取中央エリア

下図に示すように、リーダーの読取エリア全体の高さ・幅を 100%とし、制限したい読取中央エリアをパーセント指定します。
デフォルトは、20%です。



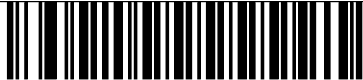
設定開始	設定終了

コマンドバーコード	説明	デフォルト
	読取中央エリア 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、0~100 で、単位はパーセントです。例えば、30%に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「読取中央エリア」「3」「0」「保存」「設定終了」	20
数値バーコード		

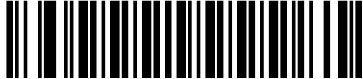
10.9. 照明 LED&Iワ- LED

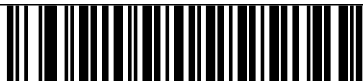
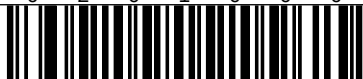
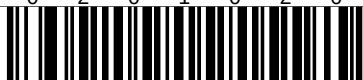
10.9.1. 照明 LED

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 0 2 0 0 0 0 0	読み取り時のみ点灯	■
 0 2 0 0 0 2 0	常に消灯	
 0 2 0 0 0 1 0	常に点灯	

10.9.2. Iワ- LED

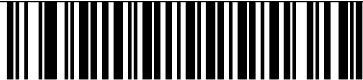
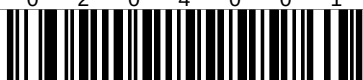
設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
---	--

コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 0 2 0 1 0 0 0	読み取り時のみ点灯	■
 0 2 0 1 0 2 0	常に消灯	
 0 2 0 1 0 1 0	常に点灯	

10.10. ステータスインディケータ

10.10.1. スタートアップビープ

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 2 0 4 0 0 1	スタートアップビープ 有効	■
 0 2 0 4 0 0 0	スタートアップビープ 無効	

10.10.2. グットリートビープ

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 2 0 3 0 1 0	グットリートビープ 有効	■
 0 2 0 3 0 0 0	グットリートビープ 無効	
 0 2 0 3 0 2 0	ビープタイプ 1	
 0 2 0 3 0 2 1	ビープタイプ 2	
 0 2 0 3 0 2 2	ビープタイプ 3	■
 0 2 0 3 0 3 0	ビープ音量 大	■
 0 2 0 3 0 3 1	ビープ音量 中	
 0 2 0 3 0 3 2	ビープ音量 小	

10.10.3. グットリド LED

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 2 0 6 0 1 1	グットリド LED 有効	■
 0 2 0 6 0 1 0	グットリド LED 無効	

10.10.4. ノーリドメッセージ送信

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 2 0 0 1 0	ノーリドメッセージ送信有効	
 0 3 2 0 0 0 0	ノーリドメッセージ送信無効	■
 0 3 2 0 0 2 0	ノーリドメッセージ 左のコマンドバーコードをスキャンした後、16 進数バーコードから設定したい文字列を ASCII コード (Hex) でスキャンします。設定できる文字列は、最大 7 文字までです。例えば、@A に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「ノーリドメッセージ」「4」「0」「4」「1」「保存」「設定終了」	

16 進数バーコード

0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	A  0 0 0 0 1 0 0	B  0 0 0 0 1 1 0
C  0 0 0 0 1 2 0	D  0 0 0 0 1 3 0	E  0 0 0 0 1 4 0	F  0 0 0 0 1 5 0
最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0	中止  0 0 0 0 1 9 0	保存  0 0 0 0 1 6 0

10.11. データフォーマット

送信データには、任意のプリフィックス/サフィックスやコード ID を付加送信することができます。もちろん、付加しないことも可能です。

コード ID	カスタムプリフィックス	AIM ID	読取データ	カスタムサフィックス	ターミネータ
--------	-------------	--------	-------	------------	--------

カスタムプリフィックス	コード ID	AIM ID	読取データ	カスタムサフィックス	ターミネータ
-------------	--------	--------	-------	------------	--------

10.11.1. プリフィックス

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

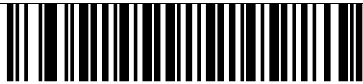
コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 1 1 0 1 0	全プリフィックス/サフィックス送信有効	
 0 3 1 1 0 0 0	全プリフィックス/サフィックス送信無効	
 0 3 1 7 0 1 0	プリフィックス送信順序 コード ID+カスタムプリフィックス+AIM ID	
 0 3 1 7 0 4 0	プリフィックス送信順序 カスタムプリフィックス+コード ID+AIM ID	■
 0 3 0 5 0 1 0	カスタムプリフィックス送信有効	
 0 3 0 5 0 0 0	カスタムプリフィックス送信無効	■

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト	
 0 3 0 0 0 0 0	カスタムリフィックス 左のコマンドバーコードをスキャンした後、16進数バーコードから設定したい文字列をASCIIコード(Hex)でスキャンします。設定できる文字列は、最大11文字までです。例えば、@Aに設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「カスタムリフィックス」「4」「0」「4」「1」「保存」「設定終了」		
16進数バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	A  0 0 0 0 1 0 0	B  0 0 0 0 1 1 0
C  0 0 0 0 1 2 0	D  0 0 0 0 1 3 0	E  0 0 0 0 1 4 0	F  0 0 0 0 1 5 0
最後の1桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0	中止  0 0 0 0 1 9 0	保存  0 0 0 0 1 6 0

10.11.2. AIM ID

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 0 8 0 3 0	AIM ID 送信有効	
 0 3 0 8 0 0 0	AIM ID 送信無効	■

(*) 「補足 B. AIM ID 表」を参照ください。

10.11.3. コード ID

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 0 7 0 1 0	コード ID 送信有効	
 0 3 0 7 0 0 0	コード ID 送信無効	■
 0 3 0 7 0 2 0	全コード ID リセット 全コード ID をデフォルト値に戻します。	

カスタムコード ID

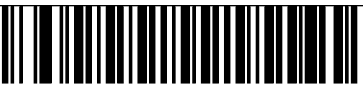
各コードに対して、カスタムコード ID を設定します。設定したいコードに対応するコマンドバーコードスキャンした後、16 進数バーコードから設定したい文字を ASCII コード (Hex) でスキャンします。例えば、PDF417 コード ID を@に設定する場合は、下記の順でスキャンします。

「設定開始」「PDF417 コード ID」「4」「0」「保存」「設定終了」

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 0 0 5 0 0 0	PDF417 コード ID	
 0 0 0 5 0 3 0	Data Matrix コード ID	
 0 0 0 5 0 1 0	QR コード ID	
 0 0 0 4 0 2 0	コード 128 コード ID	
 0 0 0 4 0 3 0	GS1-128 コード ID	
 0 0 0 4 2 1 0	AIM-128 コード ID	
 0 0 0 4 0 4 0	EAN/JAN-8 コード ID	
 0 0 0 4 0 5 0	EAN/JAN-13 コード ID	

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 0 0 4 0 6 0	UPC-E コード ID	
 0 0 0 4 0 7 0	UPC-A コード ID	
 0 0 0 4 2 4 0	ISBN コード ID	
 0 0 0 4 2 3 0	ISSN コード ID	
 0 0 0 4 1 3 0	コード 39 コード ID	
 0 0 0 4 1 7 0	コード 93 コード ID	
 0 0 0 4 0 8 0	インターリーブド 2/5 コード ID	
 0 0 0 4 0 9 0	ITF-14 コード ID	
 0 0 0 4 1 0 0	ITF-6 コード ID	
 0 0 0 4 1 5 0	コードバース(NW7)コード ID	

16 進数バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	A  0 0 0 0 1 0 0	B  0 0 0 0 1 1 0
C  0 0 0 0 1 2 0	D  0 0 0 0 1 3 0	E  0 0 0 0 1 4 0	F  0 0 0 0 1 5 0
最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0	中止  0 0 0 0 1 9 0	保存  0 0 0 0 1 6 0

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 0 0 4 2 5 0	1D スタリアル 2/5 コード ID	
 0 0 0 4 2 6 0	スタリアル 2/5 コード ID	
 0 0 0 4 1 1 0	マトリクス 2/5 コード ID	
 0 0 0 4 2 2 0	C00P2/5 コード ID	
 0 0 0 4 2 8 0	コード 11 コード ID	
 0 0 0 4 2 7 0	Plessey コード ID	
 0 0 0 4 2 9 0	MSI/Plessey コード ID	
 0 0 0 4 3 1 0	GS1 Databar コード ID	

16 進数バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 0 9 0	A  0 0 0 0 0 1 0 0	B  0 0 0 0 0 1 1 0
C  0 0 0 0 0 1 2 0	D  0 0 0 0 0 1 3 0	E  0 0 0 0 0 1 4 0	F  0 0 0 0 0 1 5 0
最後の 1 桁削除  0 0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 0 1 8 0	中止  0 0 0 0 0 1 9 0	保存  0 0 0 0 0 1 6 0

10.11.4. カスタムサフィックス

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンド バージョ	説明	デフォルト
 0 3 0 6 0 1 0	カスタムサフィックス送信有効	
 0 3 0 6 0 0 0	カスタムサフィックス送信無効	■
 0 3 0 1 0 0 0	カスタムサフィックス 左のコマンド バージョ をスキャンした後、16 進数 バージョ から設定したい文字列を ASCII コード (Hex) でスキャンします。設定できる文字列は、最大 11 文字までです。例えば、@A に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「カスタムサフィックス」「4」「0」「4」「1」「保存」「設定終了」	

16 進数 バージョ

0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	A  0 0 0 0 1 0 0	B  0 0 0 0 1 1 0
C  0 0 0 0 1 2 0	D  0 0 0 0 1 3 0	E  0 0 0 0 1 4 0	F  0 0 0 0 1 5 0
最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0	中止  0 0 0 0 1 9 0	保存  0 0 0 0 1 6 0

10.11.5. ターミナー

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 0 9 0 1 0	ターミナー送信有効	■
 0 3 0 9 0 0 0	ターミナー送信無効	
 0 3 1 0 0 1 0	ターミナー CR (0x0D)	■
 0 3 1 0 0 2 0	ターミナー CR/LF (0x0D/0x0A)	
 0 3 1 0 0 0 0	カスタムターミナー 左のコマンドバーコードをスキャンした後、16進数バーコードから設定したい文字列をASCIIコード (Hex) でスキャンします。設定できる文字列は、最大 7 文字までです。例えば、@A に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「カスタムターミナー」「4」「0」「4」「1」「保存」「設定終了」	

16 進数バーコード

0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	A  0 0 0 0 1 0 0	B  0 0 0 0 1 1 0
C  0 0 0 0 1 2 0	D  0 0 0 0 1 3 0	E  0 0 0 0 1 4 0	F  0 0 0 0 1 5 0
最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0	中止  0 0 0 0 1 9 0	保存  0 0 0 0 1 6 0

10.12. 読取コードの設定

クイック設定

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 0 0 1 0 2 0	全コード 読み取り有効	
 0 0 0 1 0 1 0	全コード 読み取り無効	
 0 0 0 1 0 4 0	全 1 次元コード 読み取り有効	
 0 0 0 1 0 3 0	全 1 次元コード 読み取り無効	
 0 0 0 1 0 6 0	全 2 次元コード 読み取り有効	
 0 0 0 1 0 5 0	全 2 次元コード 読み取り無効	

反転コード

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

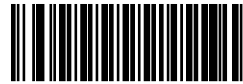
コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 0 0 1 0 2 1	反転コード 読み取り有効	
 0 0 0 1 0 1 1	反転コード 読み取り無効	■

1 次元コード

コード 128

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 0 0 0 0 0	コード 128 全デフォルト コード 128 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 0 0 0 2 0	コード 128 読み取り有効	■
 0 4 0 0 0 0 1 0	コード 128 読み取り有効	
 0 4 0 0 0 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	1
 0 4 0 0 0 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

GS1-128

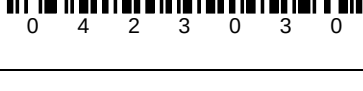
設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 1 2 0 0 0	GS1-128 全デフォルト GS1-128 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 1 2 0 2 0	GS1-128 読み取り有効	■
 0 4 1 2 0 1 0	GS1-128 読み取り有効	
 0 4 1 2 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	1
 0 4 1 2 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

AIM-128

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 2 3 0 0 0	AIM-128 全デフォルト AIM-128 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 2 3 0 2 0	AIM-128 読み取り有効	■
 0 4 2 3 0 1 0	AIM-128 読み取り有効	
 0 4 2 3 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	1
 0 4 2 3 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

EAN-8(JAN-8)

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 1 0 0 0	EAN-8 全デフォルト EAN-8 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 1 0 2 0	EAN-8 読み取り有効	■
 0 4 0 1 0 1 0	EAN-8 読み取り無効	
 0 4 0 1 0 4 0	フィックデジット送信有効	■
 0 4 0 1 0 3 0	フィックデジット送信無効	
 0 4 0 1 0 6 0	アドカ2 読み取り有効	
 0 4 0 1 0 5 0	アドカ2 読み取り無効	■
 0 4 0 1 0 8 0	アドカ5 読み取り有効	
 0 4 0 1 0 7 0	アドカ5 読み取り無効	■
 0 4 0 1 1 1 0	アドカ必須読み取り有効	
 0 4 0 1 1 2 0	アドカ必須読み取り無効	■
 0 4 0 1 1 0 0	13桁変換(先頭ゼロ5桁拡張)有効	
 0 4 0 1 0 9 0	13桁変換(先頭ゼロ5桁拡張)無効	■

EAN-13(JAN-13)

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 2 0 0 0	EAN-13 全デフォルト EAN-13 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 2 0 2 0	EAN-13 読み取り有効	■
 0 4 0 2 0 1 0	EAN-13 読み取り無効	
 0 4 0 2 0 4 0	フィックデジット送信有効	■
 0 4 0 2 0 3 0	フィックデジット送信無効	
 0 4 0 2 0 6 0	アドカ2 読み取り有効	
 0 4 0 2 0 5 0	アドカ2 読み取り無効	■
 0 4 0 2 0 8 0	アドカ5 読み取り有効	
 0 4 0 2 0 7 0	アドカ5 読み取り無効	■
 0 4 0 2 0 9 0	アドカ必須読み取り有効	
 0 4 0 2 1 0 0	アドカ必須読み取り無効	■

ISSN

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 0 4 2 1 0 0 0	ISSN 全デフォルト ISSN 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 2 1 0 2 0	ISSN 読み取り有効	■
 0 4 2 1 0 1 0	ISSN 読み取り無効	
 0 4 2 1 0 3 0	PT 2 読み取り有効	
 0 4 2 1 0 4 0	PT 2 読み取り無効	■
 0 4 2 1 0 5 0	PT 5 読み取り有効	
 0 4 2 1 0 6 0	PT 5 読み取り無効	■
 0 4 2 1 0 7 0	PT 必須読み取り有効	
 0 4 2 1 0 8 0	PT 必須読み取り無効	■

ISBN

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 1 6 0 0 0	ISBN 全デフォルト ISBN 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 1 6 0 2 0	ISBN 読み取り有効	■
 0 4 1 6 0 1 0	ISBN 読み取り無効	
 0 4 1 6 0 3 0	ISBN-13 フォーマット	■
 0 4 1 6 0 4 0	ISBN-10 フォーマット	
 0 4 1 6 0 5 0	2D 読み取り有効	
 0 4 1 6 0 6 0	2D 読み取り無効	■
 0 4 1 6 0 7 0	5D 読み取り有効	
 0 4 1 6 0 8 0	5D 読み取り無効	■
 0 4 1 6 0 9 0	2D 必須読み取り有効	
 0 4 1 6 1 0 0	2D 必須読み取り無効	■

UPC-E

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 3 0 0 0	UPC-E 全デフォルト UPC-E 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 3 0 2 0	UPC-E 読み取り有効	■
 0 4 0 3 0 1 0	UPC-E 読み取り無効	
 0 4 0 3 0 4 0	チェックビット送信有効	■
 0 4 0 3 0 3 0	チェックビット送信無効	
 0 4 0 3 0 6 0	A ² 読み取り有効	
 0 4 0 3 0 5 0	A ² 読み取り無効	■
 0 4 0 3 0 8 0	A ⁵ 読み取り有効	
 0 4 0 3 0 7 0	A ⁵ 読み取り無効	■
 0 4 0 3 1 3 0	A ¹⁰ 必須読み取り有効	
 0 4 0 3 1 4 0	A ¹⁰ 必須読み取り無効	■
 0 4 0 3 1 0 0	システムキャラクタ 0 送信有効	■
 0 4 0 3 0 9 0	システムキャラクタ 0 送信無効	
 0 4 0 3 1 2 0	UPC-A 変換有効	
 0 4 0 3 1 1 0	UPC-A 変換無効	■

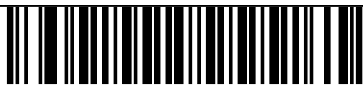
UPC-A

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 4 0 0 0	UPC-A 全デフォルト UPC-A 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 4 0 2 0	UPC-A 読み取り有効	■
 0 4 0 4 0 1 0	UPC-A 読み取り無効	
 0 4 0 4 0 4 0	フィックビット送信有効	■
 0 4 0 4 0 3 0	フィックビット送信無効	
 0 4 0 4 0 6 0	アドバ2 読み取り有効	
 0 4 0 4 0 5 0	アドバ2 読み取り無効	■
 0 4 0 4 0 8 0	アドバ5 読み取り有効	
 0 4 0 4 0 7 0	アドバ5 読み取り無効	■
 0 4 0 4 1 1 0	アドバ必須読み取り有効	
 0 4 0 4 1 2 0	アドバ必須読み取り無効	■
 0 4 0 4 1 0 0	先頭0 送信有効	
 0 4 0 4 0 9 0	先頭0 送信無効	■

インターリーブド 2/5

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 5 0 0 0 0	インターリーブド 2/5 全デフォルト インターリーブド 2/5 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 5 0 2 0 0	インターリーブド 2/5 読み取り有効	■
 0 4 0 5 0 1 0 0	インターリーブド 2/5 読み取り無効	
 0 4 0 5 0 5 0 0	チェックビット検査無効 (読取データをそのまま全桁送信)	■
 0 4 0 5 0 6 0 0	チェックビット検査有効・送信無効	
 0 4 0 5 0 7 0 0	チェックビット検査有効・送信有効	
 0 4 0 5 0 3 0 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、2~100 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	6
 0 4 0 5 0 4 0 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、2~100 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	100

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0 0	2  0 0 0 0 0 2 0 0	3  0 0 0 0 0 3 0 0
4  0 0 0 0 0 4 0 0	5  0 0 0 0 0 5 0 0	6  0 0 0 0 0 6 0 0	7  0 0 0 0 0 7 0 0
8  0 0 0 0 0 8 0 0	9  0 0 0 0 0 9 0 0	最後の1桁削除  0 0 0 0 1 7 0 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0 0
中止  0 0 0 0 1 6 0 0		保存  0 0 0 0 1 6 0 0	

ITF-14

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 5 2 6 0	ITF-14 全デフォルト ITF-14 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 5 0 8 0	ITF-14 読み取り無効	
 0 4 0 5 0 9 0	ITF-14 読み取り有効・チェックビット送信無効	■
 0 4 0 5 1 0 0	ITF-14 読み取り有効・チェックビット送信有効	

(*) ITF-14 と ITF-6 を同時に読み取り有効に設定しないでください。

ITF-6

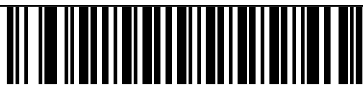
設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 5 2 7 0	ITF-6 全デフォルト ITF-6 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 5 1 1 0	ITF-6 読み取り無効	■
 0 4 0 5 1 2 0	ITF-6 読み取り有効・チェックビット送信無効	
 0 4 0 5 1 3 0	ITF-6 読み取り有効・チェックビット送信有効	

(*) ITF-14 と ITF-6 を同時に読み取り有効に設定しないでください。

マトリクス 2/5

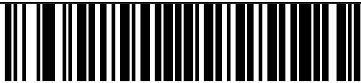
設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 6 0 0 0	マトリクス 2/5 全デフォルト マトリクス 2/5 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 6 0 2 0	マトリクス 2/5 読み取り有効	
 0 4 0 6 0 1 0	マトリクス 2/5 読み取り無効	■
 0 4 0 6 0 5 0	チェックサム検査無効 (読取データをそのまま全桁送信)	
 0 4 0 6 0 6 0	チェックサム検査有効・送信無効	■
 0 4 0 6 0 7 0	チェックサム検査有効・送信有効	
 0 4 0 6 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	6
 0 4 0 6 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

インダストリアル 2/5

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 1 7 0 0 0	インダストリアル 2/5 全デフォルト インダストリアル 2/5 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 1 7 0 2 0	インダストリアル 2/5 読み取り有効	■
 0 4 1 7 0 1 0	インダストリアル 2/5 読み取り無効	
 0 4 1 7 0 5 0	チェックサム検査無効 (読取データをそのまま全桁送信)	■
 0 4 1 7 0 6 0	チェックサム検査有効・送信無効	
 0 4 1 7 0 7 0	チェックサム検査有効・送信有効	
 0 4 1 7 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	6
 0 4 1 7 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

スタンダード 2/5

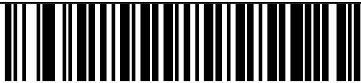
設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 1 8 0 0 0	スタンダード 2/5 全デフォルト スタンダード 2/5 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 1 8 0 2 0	スタンダード 2/5 読み取り有効	■
 0 4 1 8 0 1 0	スタンダード 2/5 読み取り無効	
 0 4 1 8 0 5 0	チェックサム検査無効 (読取データをそのまま全桁送信)	■
 0 4 1 8 0 6 0	チェックサム検査有効・送信無効	
 0 4 1 8 0 7 0	チェックサム検査有効・送信有効	
 0 4 1 8 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	6
 0 4 1 8 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の1桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

コード 39

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

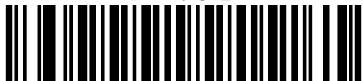
コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 8 0 0 0	コード 39 全デフォルト コード 39 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 8 0 2 0	コード 39 読み取り有効	■
 0 4 0 8 0 1 0	コード 39 読み取り無効	
 0 4 0 8 0 9 0	スタート/ストップキャラクタ送信有効	
 0 4 0 8 0 8 0	スタート/ストップキャラクタ送信無効	■
 0 4 0 8 0 5 0	チェックサム検査無効(読取データをそのまま全桁送信)	■
 0 4 0 8 0 6 0	チェックサム検査有効・送信無効	
 0 4 0 8 0 7 0	チェックサム検査有効・送信有効	■
 0 4 0 8 1 1 0	FLSK読み取り有効	■
 0 4 0 8 1 0 0	FLSK読み取り無効	

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 0 8 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	1
 0 4 0 8 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

コードバ - (NW7)

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバ -コード	説明	デフォルト
 0 4 0 9 0 0 0	コードバ - (NW7) 全デフォルト コードバ - (NW7) 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 0 9 0 2 0	コードバ - (NW7) 読み取り有効	■
 0 4 0 9 0 1 0	コードバ - (NW7) 読み取り無効	
 0 4 0 9 0 9 0	スタート/ストップ°キャラクタ送信有効	
 0 4 0 9 0 8 0	スタート/ストップ°キャラクタ送信無効	■
 0 4 0 9 1 0 0	スタート/ストップ°キャラクタ ABCD/ABCD	■
 0 4 0 9 1 1 0	スタート/ストップ°キャラクタ ABCD/TN*E	
 0 4 0 9 1 2 0	スタート/ストップ°キャラクタ大文字送信	■
 0 4 0 9 1 3 0	スタート/ストップ°キャラクタ小文字送信	
 0 4 0 9 0 5 0	チェックデジット検査無効 (読取データをそのまま全桁送信)	■
 0 4 0 9 0 6 0	チェックデジット検査有効・送信無効	
 0 4 0 9 0 7 0	チェックデジット検査有効・送信有効	

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト	
 0 4 0 9 0 3 0	最小読取桁数 左の「コマンドバーコード」をスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	1	
 0 4 0 9 0 4 0	最大読取桁数 左の「コマンドバーコード」をスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127	
数値バーコード			
 0 0 0 0 0 0 0	 0 0 0 0 0 1 0	 0 0 0 0 0 2 0	 0 0 0 0 0 3 0
 0 0 0 0 0 4 0	 0 0 0 0 0 5 0	 0 0 0 0 0 6 0	 0 0 0 0 0 7 0
 0 0 0 0 0 8 0	 0 0 0 0 0 9 0	 最後の 1 桁削除 0 0 0 0 1 7 0	 全桁削除 0 0 0 0 1 8 0
 中止 0 0 0 0 1 6 0		 保存 0 0 0 0 1 6 0	

コード 93

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 1 0 0 0 0	コード 93 全デフォルト コード 93 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 1 0 0 2 0	コード 93 読み取り有効	■
 0 4 1 0 0 1 0	コード 93 読み取り無効	
 0 4 1 0 0 5 0	チェックビット検査無効 (読取データをそのまま全桁送信)	
 0 4 1 0 0 6 0	チェックビット検査有効・送信無効	■
 0 4 1 0 0 7 0	チェックビット検査有効・送信有効	
 0 4 1 0 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	3
 0 4 1 0 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の1桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

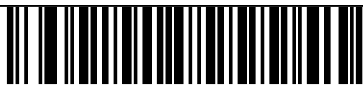
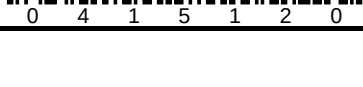
GS1 Databar

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 1 3 0 0 0	GS1 Databar 全デフォルト GS1 Databar 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 1 3 0 2 0	GS1 Databar 読み取り有効	■
 0 4 1 3 0 1 0	GS1 Databar 読み取り無効	
 0 4 1 3 0 6 0	アプリケーション ID[01]送信有効	■
 0 4 1 3 0 5 0	アプリケーション ID[01]送信無効	

コード 11

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 1 5 0 0 0	コード 11 全デフォルト コード 11 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 1 5 0 2 0	コード 11 読み取り有効	■
 0 4 1 5 0 1 0	コード 11 読み取り無効	
 0 4 1 5 0 5 0	チェックサム検査無効	
 0 4 1 5 0 6 0	1 チェックサム(MOD11)検査有効	■
 0 4 1 5 0 7 0	2 チェックサム(MOD11/11)検査有効	
 0 4 1 5 0 8 0	2 チェックサム(MOD11/9)検査有効	
 0 4 1 5 0 9 0	1 チェックサム(MOD11)検査有効, 桁数<=10 桁 2 チェックサム(MOD11/11)検査有効, 桁数>10 桁	
 0 4 1 5 1 0 0	1 チェックサム(MOD11)検査有効, 桁数<=10 桁 2 チェックサム(MOD11/9)検査有効, 桁数>10 桁	
 0 4 1 5 1 1 0	チェックサム送信無効	■
 0 4 1 5 1 2 0	チェックサム送信有効	

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 1 5 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	2
 0 4 1 5 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

Plessey

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト	
 0 4 1 9 0 0 0	Plessey 全デフォルト Plessey 設定を全てデフォルトに戻します。		
 0 4 1 9 0 2 0	Plessey 読み取り有効	■	
 0 4 1 9 0 1 0	Plessey 読み取り無効		
 0 4 1 9 0 5 0	チェックビット検査無効(読取データをそのまま全桁送信)		
 0 4 1 9 0 6 0	チェックビット検査有効・送信無効	■	
 0 4 1 9 0 7 0	チェックビット検査有効・送信有効		
 0 4 1 9 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	1	
 0 4 1 9 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127	
数値バーコード			
 0 0 0 0 0 0 0	 0 0 0 0 0 1 0	 0 0 0 0 0 2 0	 0 0 0 0 0 3 0
 0 0 0 0 0 4 0	 0 0 0 0 0 5 0	 0 0 0 0 0 6 0	 0 0 0 0 0 7 0
 0 0 0 0 0 8 0	 0 0 0 0 0 9 0	最後の 1 桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

MSI-Plessey

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 4 2 0 0 0 0	MSI-Plessey 全デフォルト MSI-Plessey 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 4 2 0 0 2 0	MSI-Plessey 読み取り有効	■
 0 4 2 0 0 1 0	MSI-Plessey 読み取り無効	
 0 4 2 0 0 5 0	チェックビット検査無効	
 0 4 2 0 0 6 0	1 チェックビット(MOD10)検査有効	■
 0 4 2 0 0 7 0	2 チェックビット(MOD10/10)検査有効	
 0 4 2 0 0 8 0	2 チェックビット(MOD10/11)検査有効	
 0 4 2 0 0 9 0	チェックビット送信無効	■
 0 4 2 0 1 0 0	チェックビット送信有効	

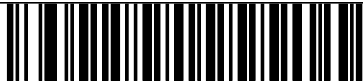
設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト	
 0 4 2 0 0 3 0	最小読取桁数 左の「コマンドバーコード」をスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	2	
 0 4 2 0 0 4 0	最大読取桁数 左の「コマンドバーコード」をスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~127 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	127	
数値バーコード			
 0 0 0 0 0 0 0	 0 0 0 0 0 1 0	 0 0 0 0 0 2 0	 0 0 0 0 0 3 0
 0 0 0 0 0 4 0	 0 0 0 0 0 5 0	 0 0 0 0 0 6 0	 0 0 0 0 0 7 0
 0 0 0 0 0 8 0	 0 0 0 0 0 9 0	 最後の 1 桁削除 0 0 0 0 1 7 0	 全桁削除 0 0 0 0 1 8 0
 中止 0 0 0 0 1 6 0		 保存 0 0 0 0 1 6 0	

2 次元コード

PDF417

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 5 0 1 0 0 0	PDF417 全デフォルト PDF417 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 5 0 1 0 2 0	PDF417 読み取り有効	■
 0 5 0 1 0 1 0	PDF417 読み取り無効	
 0 5 0 1 0 7 0	シングル PDF417 のみ読み取り	■
 0 5 0 1 0 8 0	ツイン PDF417 のみ読み取り	
 0 5 0 1 0 9 0	シングル&ツイン PDF417 両方を読み取り	
 0 5 0 1 1 1 0	ツイン PDF417 送信順序 1 情報量が多い方を先に送信	■
 0 5 0 1 1 0 0	ツイン PDF417 送信順序 2 情報量が少ない方を先に送信	
 0 5 0 1 3 5 0	標準エンコーディング	■
 0 5 0 1 3 5 1	UTF8 エンコーディング	

(*) ツイン PDF417 は、同じ仕様の 2 つの PDF417 が垂直又は水平に同一方向で隣接したコードです。

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 5 0 1 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~2710 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	1
 0 5 0 1 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~2710 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	2710

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の1桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

QR

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 5 0 2 0 0 0	QR 全デフォルト QR 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 5 0 2 0 2 0	QR 読み取り有効	■
 0 5 0 2 0 1 0	QR 読み取り無効	
 0 5 0 2 1 1 0	Micro QR 読み取り有効	■
 0 5 0 2 1 0 0	Micro QR 読み取り無効	
 0 5 0 2 0 7 0	シングル QR のみ読み取り	■
 0 5 0 2 0 8 0	ツイン QR のみ読み取り	
 0 5 0 2 0 9 0	シングル&ツイン QR 両方を読み取り	
 0 5 0 2 1 4 0	ツイン QR 送信順序 1 情報量が多い方を先に送信	
 0 5 0 2 1 3 0	ツイン QR 送信順序 2 情報量が少ない方を先に送信	
 0 5 0 2 1 2 0	ツイン QR 送信順序 3 水平方向に隣接している場合、左側を先に送信 垂直方向に隣接している場合、上側を先に送信	■
 0 5 0 2 1 6 0	標準エンコーディング	■
 0 5 0 2 1 6 1	UTF8 エンコーディング	

(*) ツイン QR は、同じ仕様の 2 つの QR が垂直又は水平に同一方向で隣接したコードです。

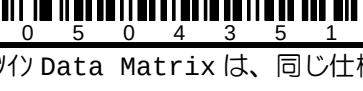
設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 5 0 2 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~7089 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	1
 0 5 0 2 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~7089 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	7089

数値バーコード			
0  0 0 0 0 0 0 0	1  0 0 0 0 0 1 0	2  0 0 0 0 0 2 0	3  0 0 0 0 0 3 0
4  0 0 0 0 0 4 0	5  0 0 0 0 0 5 0	6  0 0 0 0 0 6 0	7  0 0 0 0 0 7 0
8  0 0 0 0 0 8 0	9  0 0 0 0 0 9 0	最後の1桁削除  0 0 0 0 1 7 0	全桁削除  0 0 0 0 1 8 0
中止  0 0 0 0 1 6 0		保存  0 0 0 0 1 6 0	

Data Matrix

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 5 0 4 0 0 0	Data Matrix 全デフォルト Data Matrix 設定を全てデフォルトに戻します。	
 0 5 0 4 0 2 0	Data Matrix 読み取り有効	■
 0 5 0 4 0 1 0	Data Matrix 読み取り無効	
 0 5 0 4 1 1 0	長方形 Data Matrix 読み取り有効	■
 0 5 0 4 1 0 0	長方形 Data Matrix 読み取り無効	
 0 5 0 4 3 3 1	正方形 Data Matrix 読み取り有効	■
 0 5 0 4 3 3 0	正方形 Data Matrix 読み取り無効	
 0 5 0 4 0 7 0	シングル Data Matrix のみ読み取り	■
 0 5 0 4 0 8 0	ツイン Data Matrix のみ読み取り	
 0 5 0 4 0 9 0	シングル&ツイン Data Matrix 両方を読み取り	
 0 5 0 4 3 5 0	標準エンコーディング	■
 0 5 0 4 3 5 1	UTF8 エンコーディング	

(*) ツイン Data Matrix は、同じ仕様の 2 つの Data Matrix が垂直又は水平に同一方向で隣接したコードです。

設定開始  0 0 0 6 0 1 0	設定終了  0 0 0 6 0 0 0
--	---

コマンドバーコード	説明	デフォルト	
 0 5 0 4 0 3 0	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~3116 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最小読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	1	
 0 5 0 4 0 4 0	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、数値バーコードから設定したい値をスキャンします。設定範囲は、1~3116 です。例えば、10 桁に設定する場合は、下記の順でスキャンします。 「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「保存」「設定終了」	3116	
数値バーコード			
 0 0 0 0 0 0 0	 0 0 0 0 0 1 0	 0 0 0 0 0 2 0	 0 0 0 0 0 3 0
 0 0 0 0 0 4 0	 0 0 0 0 0 5 0	 0 0 0 0 0 6 0	 0 0 0 0 0 7 0
 0 0 0 0 0 8 0	 0 0 0 0 0 9 0	 最後の1桁削除 0 0 0 0 1 7 0	 全桁削除 0 0 0 0 1 8 0
 中止 0 0 0 0 1 6 0		 保存 0 0 0 0 1 6 0	

10.13. イメージコントロール

10.13.1. 周囲照明

蛍光灯がメインの倉庫や日光にさらされた屋外の作業場など、周囲光の条件は、使用される場所により様々です。50-60Hz の AC 電源による蛍光灯の場合、光がちらつくことがあります。通常、屋内照明は、およそ 1,000 lux ですが、屋外の場合は、60,000 lux 又は 100,000 lux を超えるようなケースもあります。

リーダーには、下記の 2 つの照明オプションが用意されています。

設定開始	設定終了
	
0 0 0 6 0 1 0	0 0 0 6 0 0 0

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 3 1 3 1 5 0	標準レベル照明 (0~60000 lux) 一般的な屋内・屋外環境で適用します。	■
 0 3 1 3 1 5 1	高レベル照明 (60000~120000 lux) 非常に強烈な光のある特別な環境で適用します。	

10.13.2. イメージの回転

リーダの取付方向により、イメージが期待する方向とは異なる形で取り込まれる場合があります。この場合、イメージを回転させることで、期待通りの結果を得ることが可能になります。

下記の図は、標準イメージと3パターンの回転イメージを表しています。



標準イメージ



左右反転イメージ



上下反転イメージ



左右&上下反転イメージ

設定開始 0 0 0 6 0 1 0	設定終了 0 0 0 6 0 0 0
---------------------------	---------------------------

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 2 0 2 0 0 0	回転タイプ 無し	■
 0 2 0 2 0 3 0	回転タイプ 上下	
 0 2 0 2 0 3 1	回転タイプ 左右	
 0 2 0 2 0 3 2	回転タイプ 上下&左右	
 0 2 0 2 0 3 3	上下回転有効	
 0 2 0 2 0 3 4	上下回転無効	
 0 2 0 2 0 3 5	左右回転有効	
 0 2 0 2 0 3 6	左右回転無効	

10.14. シリアルコマンド

シリアルコマンドは、RS232 シリアルインターフェイス及び USB-COM インターフェイスでのみ使用可能です。

10.14.1. コンフィグレーションコマンド

コマンドをセミコロンで区切ることで、一度に複数のコマンドをリーダーに対して発行することができます。但し、コマンドの総バイト数は、100 バイトを超えてはいけません。

コマンド書式には、下記の 4 種類があります。最初の固定 3 バイト「NLS」は、「nls」と小文字で指定することも可能です。

コマンド書式 1 : NLS+コマンド

ほとんどのコマンドは、設定値の無い、このシンプルな書式になります。

例) 読取モードをオートセレクトに設定 : NLS0302010;



コマンド書式 2 : NLS+コマンド=数字

10 進数の設定値を伴う書式になります。

例) 読取タイムアウトを 3000 ミリ秒に設定 : NLS0313000=3000;



コマンド書式 3 : NLS+コマンド=16 進数

16 進数の設定値を伴う書式になります。

例) カスタムサフィックスを CR/LF (0x0d0a) に設定 : NLS0301000=0x0d0a;

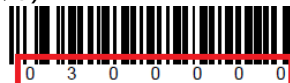


設定したカスタムプリフィックス/サフィックスを送信する場合は、「カスタムプリフィックス送信有効」「カスタムサフィックス送信有効」に設定する必要があります。

コマンド書式 4 : NLS+コマンド="文字列"

文字列の設定値を伴う書式になります。

例) カスタムプリフィックスを AUTO-ID に設定 : NLS0300000="AUTO-ID";



[参考]

上記書式 1~4 の例を一括して送信する場合、下記のように「設定開始」と「設定終了」を挟んで送信します。また、一括ではなく、1 つのコマンドを送信する場合も前後に「設定開始」と「設定終了」が必要です。

NLS0006010;NLS0302010;NLS0313000=3000;NLS0301000=0x0d0a;NLS0300000="AUTO-ID"; NLS0006000;



リーダーは、コマンドを正しく受信・実行すると、ACK(0x06)を返し、失敗した場合は、NAK(0x15)を返します。ACK/NAK 応答は、各コマンド毎(NLS~;)に行われるため、上記の例では、ACK が 6 回返送されます。

コンフィグレーションコマンドで設定した値は、不揮発性メモリに保存されるため、電源を切っても消えることはありません。

10.14.2. トリガ コマンド

読取開始コマンド 0x1b 0x31

リーダーに 0x1b 0x31 を送信すると、トリガ ボタンを押した時と同様に読み取りを開始します。リーダーは、コマンドを正しく受信すると、ACK(0x06)を返送します。デフォルトの読取タイムアウトは、3000 ミリ秒です。読取タイムアウトは、コマンドバーコード及び先のソフトウェアレシーブコマンドで変更することが可能です。

読取終了コマンド 0x1b 0x30 を受信すると、リーダーは、トリガ 待ち状態に戻ります。また、電源の再立ち上げを行った場合は、不揮発性メモリに設定されているトリガ モードで初期化されます。

読取終了コマンド 0x1b 0x30

リーダーに 0x1b 0x30 を送信すると、読み取りを終了し、トリガ 待ち状態に戻ります。リーダーは、コマンドを正しく受信すると、ACK(0x06)を返送し、トリガ 待ち状態になります。

オートセレクト モード 移行コマンド 0x1b 0x32

リーダーに 0x1b 0x32 を送信すると、オートセレクト モードに移行します。リーダーは、コマンドを正しく受信すると、ACK(0x06)を返送します。

読取終了コマンド 0x1b 0x30 を受信すると、リーダーは、トリガ 待ち状態に戻ります。また、電源の再立ち上げを行った場合は、不揮発性メモリに設定されているトリガ モードで初期化されます。

コンティニアスモード 移行コマンド 0x1b 0x33

リーダーに 0x1b 0x33 を送信すると、コンティニアスモードに移行します。リーダーは、コマンドを正しく受信すると、ACK(0x06)を返送します。

読取終了コマンド 0x1b 0x30 を受信すると、リーダーは、トリガ 待ち状態に戻ります。また、電源の再立ち上げを行った場合は、不揮発性メモリに設定されているトリガ モードで初期化されます。

補足 A. ASCII ファンクションキーマッピング表

ASCII	Hex	ファンクションキーマッピング 無効	ファンクションキーマッピング 有効
NUL	00	Null	Ctrl+2
SOH	01	テキ Enter	Ctrl+A
STX	02	Caps Lock	Ctrl+B
ETX	03	Null	Ctrl+C
EOT	04	Null	Ctrl+D
ENQ	05	Null	Ctrl+E
ACK	06	Null	Ctrl+F
BEL	07	Enter	Ctrl+G
BS	08	←	Ctrl+H
HT	09	水平 Tab	Ctrl+I
LF	0A	↓	Ctrl+J
VT	0B	垂直 Tab	Ctrl+K
FF	0C	バックスペース	Ctrl+L
CR	0D	Enter	Ctrl+M
SO	0E	Insert	Ctrl+N
SI	0F	ESC	Ctrl+O
DLE	10	F11	Ctrl+P
DC1	11	Home	Ctrl+Q
DC2	12	Print Screen	Ctrl+R
DC3	13	Delete	Ctrl+S
DC4	14	Tab+Shift	Ctrl+T
NAK	15	F12	Ctrl+U
SYN	16	F1	Ctrl+V
ETB	17	F2	Ctrl+W
CAN	18	F3	Ctrl+X
EM	19	F4	Ctrl+Y
SUB	1A	F5	Ctrl+Z
ESC	1B	F6	Ctrl+[(英語キーボード)
FS	1C	F7	Ctrl+¥ (英語キーボード)
GS	1D	F8	Ctrl+] (英語キーボード)
RS	1E	F9	Ctrl+6 (英語キーボード)
US	1F	F10	Ctrl+- (英語キーボード)

補足 B. AIM ID 表

コード名	AIM ID	補足
EAN-13	]E0	標準 EAN-13
	]E3	EAN-13 プト 2/5
EAN-8	]E4	標準 EAN-8
	]E4...]E1...	EAN-8 プト 2
	]E4...]E2...	EAN-8 プト 5
UPC-E	]E0	標準 UPC-E
	]E3	UPC-E プト 2/5
UPC-A	]E0	標準 UPC-A
	]E3	UPC-A プト 2/5
コード 128	]E0	標準コード 128
GS1-128	]C1	スタートキャラクタの後、1 番目に FNC1 がインコードされたコード 128
AIM-128	]C2	FNC1 が 2 番目のキャラクタとしてインコードされたコード 128
ISBT-128	]C4	
インタープット 2/5	]I0	チェックビット検査無し
	]I1	チェックビット検査有り・送信有り
	]I3	チェックビット検査有り・送信無し
ITF-6	]I1	チェックビット検査有り・送信有り
	]I3	チェックビット検査有り・送信無し
ITF-14	]I1	チェックビット検査有り・送信有り
	]I3	チェックビット検査有り・送信無し
インターストリップ 2/5	]S0	
スタックコード 2/5	]R0	チェックビット検査無し
	]R8	1 チェックビット(MOD10)検査有り・送信無し
	]R9	1 チェックビット(MOD10)検査有り・送信有り
コード 39	]A0	フルアスキー無効・チェックビット検査無し
	]A1	フルアスキー無効・1 チェックビット(MOD43)検査有り・送信有り
	]A3	フルアスキー無効・1 チェックビット(MOD43)検査有り・送信無し
	]A4	フルアスキー有効・チェックビット検査無し
	]A5	フルアスキー有効・1 チェックビット(MOD43)検査有り・送信有り
	]A7	フルアスキー有効・1 チェックビット(MOD43)検査有り・送信無し
コードバー(Nw7)	]F0	標準コードバー
	]F2	チェックビット検査有り・送信有り
	]F4	チェックビット検査有り・送信無し
コード 93	]G0	標準コード 93
コード 11	]H0	1 チェックビット(MOD11)検査有り・送信有り
	]H1	2 チェックビット(MOD11/MOD11)検査有り・送信有り
	]H3	チェックビット検査有り・送信無し
	]H9	チェックビット検査無し
GS1 Databar	]e0	標準 GS1 Databar
Plessey	]P0	標準 Plessey
MSI/Plessey	]M0	1 チェックビット(MOD10)検査有り・送信有り
	]M1	1 チェックビット(MOD10)検査有り・送信無し
	]M8	2 チェックビット
	]M9	チェックビット検査無し
マトリックス 2/5	]X0	製造者により指定
	]X1	チェックビット検査無し
	]X2	1 チェックビット(MOD10)検査有り・送信有り
	]X3	1 チェックビット(MOD11)検査有り・送信無し
ISBN	]X4	標準 ISBN
ISSN	]X5	標準 ISSN
PDF417	]L0	1994PDF417 仕様書に準じる
Data Matrix	]d0	ECC000-ECC140
	]d1	ECC200
	]d2	ECC200, スタートキャラクタの後、1 番目又は 5 番目に FNC1 がインコード
	]d3	ECC200, スタートキャラクタの後、2 番目又は 6 番目に FNC1 がインコード
	]d4	ECC200, ECI を含む
	]d5	ECC200, スタートキャラクタの後、1 番目又は 5 番目に FNC1 がインコード, ECI を含む
	]d6	ECC200, スタートキャラクタの後、2 番目又は 6 番目に FNC1 がインコード, ECI を含む
QR	]Q0	QR1
	]Q1	2005 バージョン, ECI を含まない
	]Q2	2005 バージョン, ECI を含む
	]Q3	2005 バージョン, ECI を含まない, スタートキャラクタの後、1 番目に FNC1 がインコード
	]Q4	2005 バージョン, ECI を含む, スタートキャラクタの後、1 番目に FNC1 がインコード
	]Q5	2005 バージョン, ECI を含まない, スタートキャラクタの後、2 番目に FNC1 がインコード
	]Q6	2005 バージョン, ECI を含む, スタートキャラクタの後、2 番目に FNC1 がインコード

補足 C. ASCII コード 表

	0		1		2	3	4	5	6	7
0	NUL	^@	DLE	^P	SP	0	@	P	`	p
1	SOH	^A	DC1	^Q	!	1	A	Q	a	q
2	STX	^B	DC2	^R	"	2	B	R	b	r
3	ETX	^C	DC3	^S	#	3	C	S	c	s
4	EOT	^D	DC4	^T	\$	4	D	T	d	t
5	ENQ	^E	NAK	^U	%	5	E	U	e	u
6	ACK	^F	SYN	^V	&	6	F	V	f	v
7	BEL	^G	ETB	^W	'	7	G	W	g	w
8	BS	^H	CAN	^X	(	8	H	X	h	x
9	HT	^I	EM	^Y	)	9	I	Y	i	y
A	LF	^J	SUB	^Z	*	:	J	Z	j	z
B	VT	^K	ESC	^[	+	;	K	[	k	{
C	FF	^L	FS	^\	,	<	L	\	l	
D	CR	^M	GS	^]	-	=	M	]	m	}
E	SO	^N	RS	^^	.	>	N	^	n	~
F	SI	^O	US	^_	/	?	O	_	o	DLE